

# 夏ご坊さまの晩天講座

8月 1日~5日  
午前 6:30

2日

「ぼくらはみんな  
びせいぶつ  
微生物」

音楽家  
そに

曾爾 テラワキ 氏

1日

ほうぞうぼさつ がんしん  
「法蔵菩薩の願心と  
その成就」

金沢教区・常讀寺住職

ふじば としき

藤場 俊基 氏

3日

「南無阿弥陀仏の  
呼び声」

大谷大学学長

いちらく まこと

一楽 真 氏

4日

「なくしたものと  
つながる生き方」

一般社団法人リヴオン代表理事

おかくてるみ

尾角光美 氏

5日

「人生最期の時のために  
自分の希望をつたえましょう」

つちかわごんざぶろう

丹生川診療所 土川権三郎氏

## 追弔会

8月2日

午後 1:00

法話

大谷大学学長

一楽 真 氏



2023年度

主催 飛驒学場・高山別院

本講 1日~3日

講師 藤場俊基 氏 (金沢教区・常讚寺住職)

講題 「仏教と相応する聞②~『浄土論』『浄土論註』が開く世界~」

次講 4日~5日

講師 尾角光美 氏 (一般社団法人リヴオン代表理事)

講題 「死別を支えるお寺の力」

追弔会 8月2日(水) 午後1:00 法話: 一楽 真 氏 (大谷大学学長)

「生活の中で念仏するのでなく、念仏が生活になるのです 宮城 顕」

正月番組「寿」

もう五〇年近く前に、テレビの正月番組を見ました。タイトルは「寿」でした。出演者は、すでに亡くなられましたが、京都・清水寺の管長をしておられた大西良慶師。出演当時で一〇四歳の高齢でしたが、週に一回現役で法話をされていました。他の出演者は、中年・若者の男女が各一組。司会は、有名な『氣くばりのすすめ』を書いた、黒縁メガネでいつもニコニコしておられたNHKの鈴木健二アナウンサーでした。三〇分ほどの番組で、新年早々めでたい席で、皆さんにこやかに話し合っておられました。

長生きの秘訣

これといったことを語ることもなく、おだやかな日常や、時には笑いが出る話が続き、いよいよ終わりの時間が迫ってきました。そこで、鈴木氏がこのまま終わってはポイントのない番組になると気づかい、タイトルが「寿」であることから、大西和尚に「和尚さま、長生きする秘訣を教えてください」と質問しました。

日々の規則ある生活

すると和尚は、「早起きし、新聞を読み、散歩し、勉強し、昼寝し、腹七分で、早寝することです」と日常を語りました。そんなことは

特別なことでもないし、長生きの秘訣とは思われないと感じたのか、鈴木氏は「信仰も大切ではないでしょうか」と気配りというか、ダメ押ししました。

扇の要

すると、それまでニコニコしていた大西和尚の表情は一変して、きつい顔つきとなり、鈴木氏に面と向かって強い口調で「信仰がなければ何もできません!」と喝したのです。鈴木氏は絶句状態。

この場面を見て気が付きました。信仰が人間の芯にあるから、日々日常の生活が調えられ、平穩に生活できるのだ、と和尚は言っているのだと。和尚は信心の確かさを平凡な日常生活で語ったのです。

鈴木氏は「信仰も」と、「も」をつけて質問しました。あれもこれも、そして信仰も、と羅列したのです。それに対し和尚は、都合によって後まわしになつてしまうような信仰なんか信仰でないし、長生きの秘訣でも何でもないと、言い切ったのでした。扇の要として信心はある。信心がなければ、たとえば数本の骨をまとめて留めおく要がない扇、すなわちバラバラの人生にしかならないし、長生きしてもむなしだけなのです。「寿」とは長さのことはなかったのです。

三島多聞